

トレス被告は厳しい表情

'08/1/30

29日、広島高裁であった木下あいりちゃん事件の控訴審第2回公判。遺体の傷などについて詳細なやりとりが続く中、トレス被告は、時折みけんにしわを寄せるなど厳しい表情を続けた。遺族は傍聴席の最後列から法廷を見守った。

あずき色のジャンパー、ジーパン姿のトレス被告はスペイン語の同時通訳が始まると不安そうにまばたきを繰り返した。公判では弁護側証人の法医学者が、1審判決の基になった鑑定書について指摘。首の傷あとに議論が及ぶと、右手を動かすなど落ち着かない様子も見せた。

あいりちゃんの父建一さんは、まな娘の遺影を抱き、険しい視線を送り続けた。公判では、あいりちゃんの遺体の写真が繰り返し証人に示された。建一さんは公判後に「娘の写真を使い死因について審理する様子は、親として非常に辛いものでした」と胸の内を明かした。